

## 教育相談をとり入れた学級経営

青木喜広\*

### I はじめに

48年度教育センターでの研修と並行し、報告・伝達を兼ねて校内研修会を7回実施した。また、2学期以降児童を対象に教育相談を行ってきたが、自発相談は数えるほどしかなかった。それは私の閉鎖的な態度や過剰な指導意識が、児童に防御の姿勢をとらせた結果ではないのか。受容的なふんい気などといっても、しゅせんは私一人の思い上がりではなかったのか——と深く反省させられた。

児童がほんとうに安心して自発的に相談に来てくれるためにも、教育相談などという以前に、もっと私自身の日常の態度を変えていかなければならない。学級経営の基底から取り組み直さなければならぬと考えたわけである。

### II 研究の目的と方法

教育相談を、問題をもつ特定の児童のみを対象とせず、学級経営全体の中に生かす。そのために……

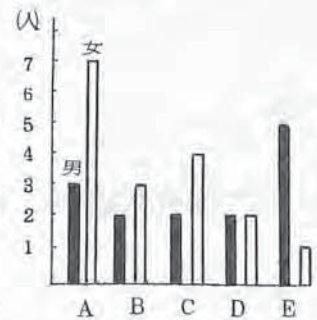
- ① 教師と児童、児童相互間に親和感を醸成し、授業においても教育相談の考えを生かした指導を心がける。
- ② グループ相談を重ねることによりラポートを深め、また、これまで実践してみても教育相談に付随する堅苦しさを解消し、気軽に自発相談ができるようにする。

### III 学級の実態

1 6年A組(男14 女17 計31名)5年の時、編成替えした学級を2年継続して担当する。組替え後しばらくはグループの片寄り、男女の違和感など多少見られたが、現在はまったくといってよいほどない。また、学習遅進児や内向的な友だちを励まし合うなど、良い傾向も見られる。

2 YG性格検査からみた傾向(4.9.1月実施)

- A類型10名。C・D類型を含めると組の3分の2になる。しかし、D類型が13%とやや少ない。
- B類型5名のうち4名は運動選手として活躍、1名はやや神経質であるが企画委員としてがんばっている。
- E類型のうち2名は学習その他上位、3名は遊びなどは活発で、むしろその中心となっている。下位・内向と観察される3名については、テスト・バッテリーによる理解や、教育相談などを行いながら、今後も注意していく必要がある。



(図1) 類型別分布

\* 北魚沼郡堀之内町立堀之内小学校



## (2) 授業における教育相談的態度

授業には到達すべきねらいがあり内容がある。したがって、授業に教育相談の方法なり態度をそのまま持ち込むことは、いたずらに多くの時間を費すことになりかねない。

教育相談の考えを生かした授業ということ、一つには学習場面そのものを共感的な人間関係の経験の場としてだいにすること、二つには、もし技術的なものがあるとしたら最大限生かすという考えに立って実践してきた。後者で特に心がけていたことは次の5点である。

### イ 教師・友だち同士受容的ふんい気を醸成し合う。

おたがいに良い点を認め合う。悪い点はあくまで悪いが、批判する前に相手の気持ちを察してみる間をとる。

### ロ 教師はあくまで児童の学習を援助するという立場をとる。

直接正答を教えるのでなく児童自ら発見できるよう援助する。「この資料・教具を使ってできないか」といったヒントは提供するが、できるだけグループや全体の討議に任す。指名もほとんどしないで児童がリレー式に発言者を指定している。

### ハ どんな発言にも耳を傾け、だいにすること。

誤答であっても、その考えのもとになることを知るように努める。

### ニ 考える時間をじゅうぶんにとる。

これが一番たいせつであるし、反面、問題も多いと感じている。児童が黙っている時こそ最も思考活動が活発な時である(例外もあろうが)。そんな時、教師も黙っていっしょに考えたり、時にはゆっくりと板書内容を色チョークでもう一度系統づけてみたりして、児童の発言を待つ。ただ、実際には40分という時間内に計画したねらいを、いかに効率的に達成させるかという問題に行き当たる。また、行き当たりばったりの授業でも困る。教育工学サークルに参加し、目標行動—フローチャート作成の手順など研修したりして、授業の効率化の方法を模索しているが、少なくとも、事前にその時間の構造図式を頭の中には握して臨むように心がける。

### ホ 児童の感情や考えを反射したり明確化してやる。

発言者自身内容に混乱があったり、あるいは聞く側に理解できない場合が大へん多くある。「諭吉の……を……と……と思っているんだね」「……の考えのようだけど、そうなんだね」と返してやる。

## (3) 経過

短い期間での実践である。「こんなに受容した」と言えるまでにはなっていない。ただし、こんな傾向がみられそうだという面では

イ さ細な観察でも記録を積み重ねることにより児童を理解する手がかりとして役立ち、観察簿をもとにして教師間の話し合いも具体的になっている。

ロ 授業中も教育相談的態度に心がけることにより、いままでのような二重人格的な矛盾による苦しみ—教育相談の時は暖かく受け入れるが、そうでない時は叱責・強制する—はあまり感じなくなった。

ハ いままでより児童の発表や質問、教師との会話に気楽さが感じられる。

## 2 グループ相談から個人自発相談へ

昨年から、スタジオ兼用ながら教育相談室を設け、全校への呼びかけもしたが、相談を申し出る者は極めて少なかった。これは相談そのものになじみが薄く、また教師とのラポートも弱いため、気軽に相談できないためと推察される。これらを解消するため、まず生活班を単位とするグループ相談を、次いで児童が決めた任意グループごとの相談を計画的に実施した。グループ・カウンセリングというより、個人自発相談への導入手段とする目的が強かったわけである。

### (1) 計画相談以後の相談状況(6年A組)

計画的相談終了後の相談状況は表2のとおりである。自発相談者の中には、何も問題はないが前回の相談が楽しかったのだというものもあり、表面的には期待どおりであるが、断定するにはまだ早い気もする。

(表2) 相談状況

男	相談の種類と内容	女	相談の種類と内容
1	呼個一母が兄弟差別する	1	自グ一妹のわがまま
2	自個一カセットを買いたい	2	自グ一野球部と水泳部の両立。動物飼育
3	呼個一家庭学習など	3	自グ一水泳部(2)
4	呼グ一学校で楽しいこと	4	自個一珠算検定(2) 自グ一自由時間
5	自グ一しつこい友だち	5	自個一家庭不和(2) 自グ一末子の立場
6	自個一ブラス部を続けるか(3完)	6	自グ一身体的なやみ(2)
7	呼個一整理の習慣	7	自グ一(特にない)
8	自グ一兄弟げんか 呼個一足の痛み	8	自個一学級委員で困ること
9	呼個一あだ名と勉強 自グ一身勝手な友人	9	自グ一生活目標が決まらない
10	自グ一声がよく出ない	10	自グ一(算数の勉強)
11	呼グ一学校で楽しいこと	11	自個一部を止めたい(3) 自グ一手紙
12	自グ一(特にない)	12	自グ一祖父のわがまま
13	自グ一算数がむずかしい	13	自グ一(算数の勉強)
14	自グ一動物飼育	14	自グ一友人のこと
	○数字は名簿番号とは一致しない。	15	自グ一(算数の勉強)
	○呼……呼び出し 自……自発的	16	自グ一(算数の勉強) 自個一登校班(2)
	個……個人 グ……グループ	17	自グ一男の友人 自個一男の友人(事例)
			自グ一部活動(2) (算数の勉強)

### (2) 逐語記録

#### —グループ相談—

7月2日 6年女子A, B, C, D (T:教師)

主訴:グループ相談の時、Aが先生に「M君と友だちになりたい」と頼んだが、進展しない。

(初め友だちに早く話すよと言われるが、恥ずかしい様子でなかなか話さない。)

T: やっぱり人がいるから言いにくい。……だってらきょうでなくてもいいんだよ。

B: あのね先生、Aちゃんね、M君好きなんだけどね、いっそ口をきかなくて、近づくと逃げ

てしまうんだよ。

C: 普通の友だちの関係でいいっていうのにも

—略—

C: 先生こういうこと、だめなんだから。

T: よくないと思う？

B: 普通の友だちならしかもいいと思うよ。

D<sub>1</sub> ね、Aちゃんね、最初からしつこ過ぎたんだよ(笑)、Mちゃん好きだよなんて言ってね(笑)

A<sub>1</sub> Bちゃんが好きなんで言ったから。

B<sub>3</sub> AちゃんがMちゃんに言ってくれて言ったから、わたしがM君、Aちゃんのことどう思うって聞いたんだよ。最初は「ん、なんとも好きでも嫌いでもない」って言っていたんだよ。そのうちがらりと態度が変わって、Aちゃんがしつこく追いかけるんで「大きらい」と言ったんだよ。

— 略 —

A<sub>2</sub> わたしは、いつも夕方植木に — 略 —  
そうするとき、Gさんなんか話しながら毎日通っているんだよ。

D<sub>2</sub> そういのはいいんだよ、自由だよ、こそこそしない。

T<sub>3</sub> 仲良くするのは、いやな感じではない。こそこそするのはいやらしい。

T<sub>4</sub> うん。Gさんなんか堂々としているんは、

わたしはちうらやましいんだよ。

A<sub>3</sub> でもさ、同じ人とばかりするのはちょっといいと思うよ。同じ人とばかりだもん。

C<sub>3</sub> そう、さ、その人とばかり集中しちゃってさ。この前の読書の時だってさ。

B<sub>5</sub> そんな時、入れと言ったんだよ。だけどさ。

— 略 —

C<sub>4</sub> Aさんだっておかしいよ。M君とそうなりたいんだろう。

A<sub>4</sub> うん。でもそれは初めだよ……。

C<sub>5</sub> 堂々とやればいいんだよ。ちょっといき過ぎてんだよ。

B<sub>6</sub> しつこくいかないでさ。何かちょっとずつさ、うーんと、普通どおり話したりしてさ、ちょっとずつ親切にすれば、そうすればなれるよ、と思うんだ。結果がどうなるやら。

C<sub>5</sub> お楽しみです。

A<sub>5</sub> うん……。

— 略 —

### — 個人相談 —

7月20日 業間体育時にAに「体がなおるまで無理するなよ」と言うと、「今日行こうかな」と言い申し込む。

(4分後)

A<sub>1</sub> あのさ、この前の話、したろ。

T<sub>1</sub> あー、みんなとこの前、あーみんなとこの前来た。

A<sub>2</sub> うん、あの時のさ、みんなもいたろ、好きだとか、いろいろ言ったんだよ。

T<sub>1</sub> あー

A<sub>3</sub> あれもういいよ。

T<sub>3</sub> あー、うまく解決した。

A<sub>4</sub> 解決なんて、解決じゃ………んーめんどく

さいんだ。

T<sub>5</sub> めんどくさい。

A<sub>5</sub> ばかにしたり、わたしが行こうとすると逃げてばかりいてさ。ちっともおもしろくないんだよ。……先生ね、このごろK君おもしろいんだよ。勉強の始まる前 — 略 —

(この後Mについては触れず、Kのこと、幽霊写真のこと、父のけがのことなど話して終わる。その後、この問題についての相談はない。)

以上の二つはグループ相談から個人相談へ移行していった例である。

(表3) アンケート結果  
(設問1~4, 8は省略)

		4~6年	6 A	
		4月	4月	9月
5) 普段だれに相談するか	父や母	117	15	11
	兄や姉	25	1	2
	祖父母	7	1	1
	友だち	82	11	10
	先生	3		3
	その他	28	3	4
6) 学校ではだれに相談したいか	相談係の先生	27	1	7
	担任の先生	84	11	15
	前の担任の先生	19	3	
	だれとも言えない	131	16	9
7) 今相談したいことがあるか	切実な事がある	9	2	5
	たいした事でないがある	36	9	6
	べつにない	218	19	20
9) 気軽に申し込めるか	気軽に申し込める	48	8	20
	気軽に申し込めない	213	23	11
10) 気軽にできない理由(いくつかもよい)	手続きがめんどうだ	27	3	2
	恥ずかしい	140	13	6
	先生に叱られそう	23	2	
	人に知れるといやだ	111	10	4
	相談しても解決しない	35	4	3
	適当な先生がいない	33	4	2
11) 個人かグループか	一人の方がよい	112	12	7
	友だちといっしょがよい	107	14	21
	どちらでもよい	47	5	3
12) 教育相談への意見(自由記述)	申し込み方法がわからない	14	2	1
	相談室の場所が悪い	8		4
	申し込みの場所が悪い	3	1	2
	相談の内容がわからない	5	1	
	人数は何人でもよいか	4	2	
	気軽にできるようになった			5
	先生が真剣に考えてくれる			4
相談室で勉強も教えて			2	

## (3) アンケートによる意識調査の結果

対象 4~6年 226名

方法 無記名 選択法 一部記述  
考察 (6Aの場合)

- 教育相談への抵抗感や堅苦しさは、しだいに解消されてきている。
- 全員がグループまたは個人相談を経験しているがなやみや問題は少なくなっていない。
- 個人よりグループで相談を希望する者が多くなっている。一人では相談しにくい気持ちがあるとすれば、まだまだラポートの成立とは言えない。また実際のグループ相談の場面で、友だちの意見に指示されての納得に終わってしまうことがあった。教育相談が本来的には1対1の関係であり、児童自らの洞察であると考え、問題は大きい。

## V おわりに

私は私なりにせめて教育相談のいとぐちだけでもつかみたくと、あれこれ模索しているうちに今日に至った。学級担任が教育相談することのむずかしさはいまでも痛感している。それは限界というより、受容と共感というカウンセラー自身の資質として問われることのようなのである。

放課後は他の仕事があるため、主として昼休みを利用した。2日に1度位の割合で児童と共に過ごしたこの時間は、私にとってかけがえのない経験だと思っている。